

アートフェア『Art Basel Hong Kong 2024』出展のご案内

アートフェア『Art Basel Hong Kong 2024』Discoveries Sector

展覧会名：高田冬彦『Cut Pieces』

ブース番号：#1C43

一般公開：2024年3月28日（木）・29日（金）14:00-20:00、30日（土）13:00-19:00

招待日：2024年3月26日（火）・27日（水）12:00-20:00

会場：Hong Kong Convention & Exhibition Centre (1 Harbour Road, Wan Chai, Hong Kong, China)

WAITINGROOMは、2024年3月28日（木）-30日（土）に開催される『Art Basel Hong Kong 2024』のDiscoveries Sector（ブースNo. : #1C43）に、高田冬彦のソロプレゼンテーション『Cut Pieces』で出展いたします。

高田冬彦は、神話や伝説、おとぎ話といったファンタジーの世界を下敷きに、ユーモアに満ちた映像作品を制作しています。そのほとんどは、作家が実際に生活している自宅アパートの一室で撮影されており、映像に登場する小道具の多くは作家自ら手づくりしたものです。監督・撮影・ナレーション、そして出演までこなす高田は、権力、国家、ジェンダー、セクシュアリティにまつわる社会問題を、独特の手法で作り込まれた作品を通して、遊び心たっぷりに問いかけます。繊細で詩的な高田作品は、ときに私たちが生きる現実世界の様々な一面を垣間見せ、現代社会に対する私たちの理解を覆すかのようです。

Art Basel Hong Kong 2024でのソロプレゼンテーションでは、2023年9月のWAITINGROOMでの個展で発表した最新作『Cut Suits』（2023）と『The Butterfly Dream』（2022）を、アートフェアのブースの中に再構成し展示します。作中で実際に使用した小道具を展示するほか、作中のイメージが展示空間まで広がったようなインсталレーション的表現など、映像作品をより空間的に展示いたします。



『Cut Suits』 2023年 installation view

作家・高田冬彦について

1987年広島県生まれ。2017年東京藝術大学大学院美術研究科油絵研究領域 博士後期過程 修了。現在は千葉県を拠点に活動中。近年の主な展覧会に、2023年個展『Cut Pieces』（WAITINGROOM／東京）、2023年グループ展『Fairy Tales』（Queensland Art Gallery | Gallery of Modern Art／brisbane、オーストラリア）、2022年グループ展『Storymakers in Contemporary Japanese Art』（The Japan Foundation Sydney／シドニー、オーストラリア）、2020年グループ展『When It Waxes and Wanes』（VBKÖ／ウィーン、オーストリア）、2021年個展『LOVE PHANTOM 2』（WAITINGROOM／東京）、2019年個展『MAMスクリーン011：高田冬彦』（森美術館／東京）、2018年個展『Dream Catcher』（Alternative Space CORE／広島）、2017年グループ展『MOTアニュアル2016 キセイノセイキ』（東京都現代美術館／東京）などが挙げられます。

展示作品について

『Art Basel Hong Kong 2024』でのソロプレゼンテーション『Cut Pieces』では、高田の最新作である《Cut Suits》（2023）と《The Butterfly Dream》（2022）という2つの映像作品に焦点を当て、インスタレーションと映像を展示します。

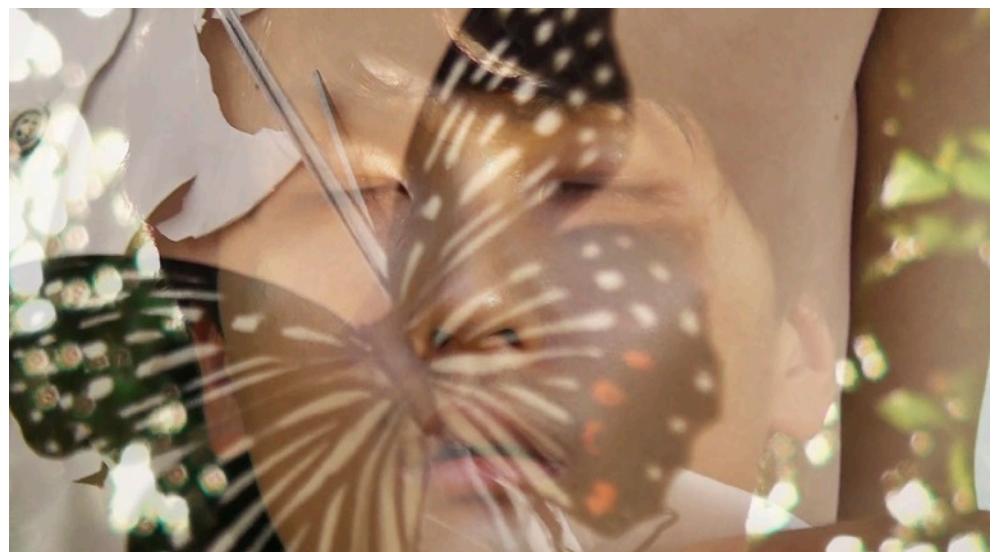
《The Butterfly Dream》（2022）は、主人公が蝶に変身する夢を見るという、中国の古典『莊子』のエピソード「胡蝶の夢」を詩的に引用した作品です。オノ・ヨーコの作品に倣い、高田は、蝶とハサミのキメラが、眠っている若者の衣服を切り裂きながら羽ばたく幻想的なシーンを創作しました。ハサミで切る／切られるさまは、権力と快楽の弁証法的な関係だけでなく、男性性そのものを取り巻く硬直した抑制をめぐる問題を提起していると言えます。

《Cut Suits》（2023）は、制度化された男性権力の表面的な装飾を文字通り「切り取る」ことで、この脱構築をさらに発展させた作品です。この作品では、ビジネススーツに身を包んだ6人の男たちが、楽観的な音楽の中、互いのスーツやシャツ、ネクタイを、楽しそうにハサミで切り取っていきます。この非暴力的で気まぐれにさえ見える儀式は、高田作品に顕著に繰り返される、脱皮・孵化といった「解放」というテーマを彷彿とさせます。家父長制を解きほぐすことに伴う混乱と困難の記念碑として、この映像作品の登場人物の身体から切り離されたボロボロの衣服は、スクリーンの前に積み上げられ、脱皮した「男らしさ」の墓場のようにも見えます。

高田は、デュシャンの有名な“Cemetery of Uniforms and Liveries”を参照し、男らしさ・女らしさの象徴化とステレオタイプ化を表現しています。また、ミニマリストの彫刻家ロバート・モリスの活動も参照しながら、展示会場にちぎれた布を散乱させます。こうして作家は、満員電車に寿司詰めにされた姿がよく想像される通り、日本における男らしさの象徴とも捉えられる「サラリーマン」の姿をフェティシズム化することで、西洋美術と日本の現代アーティストとしてのアイデンティティを対話させています。異性愛規範と資本主義的父性性の運命を縛り付ける糸をいたずらに断ち切ることで、サラリーマンを人間化し、水面下に隠された無邪気な喜びを救い出します。



『Cut Suits』 2023年（ビデオスチル）



『The Butterfly Dream』 2022年（ビデオスチル）

高田 冬彦 (たかた・ふゆひこ)

1987 広島県生まれ
 2007 美学校 卒業
 2011 東京造形大学造形学部デザイン学科写真専攻 卒業
 2013 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究領域 修了
 2017 東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻油画研究領域
 博士後期過程 修了
 現在千葉県を拠点に活動中

個展

2023 「Cut Pieces」 WAITINGROOM (東京)
 2021 「LOVE PHANTOM 2」 WAITINGROOM (東京)
 2019 「MAMスクリーン011: 高田冬彦」 森美術館 (東京)
 2018 「Dream Catcher」 Alternative Space CORE (広島)
 2017 「LOVE PHANTOM」 Art Center Ongoing (東京)
 2016 「STORYTELLING」 児玉画廊 (東京)
 2014 「MY FANTASIA II」 Art Center Ongoing (東京)
 2013 「MY FANTASIA」 児玉画廊 (京都)
 2012 「VENUS ANAL TRAP」 Art Center Ongoing (東京)



2023年 個展『Cut Pieces』 (WAITINGROOM、東京) 展示風景
 Photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

主なグループ展

2023 「Fairy Tales」 Queensland Art Gallery | Gallery of Modern Art (ブリスベン、オーストラリア)
 「山梨国際芸術祭 “八ヶ岳アート・エコロジー 2023”」 山梨県北杜市 (山梨)
 「マッドスプリング」 Kanda & Oliveira (千葉)
 「無人のアーケ (Study : 大阪国際芸術祭 Exhibition Program)」 グランフロント大阪 うめきたSHIPホール (大阪)
 2022 「Storymakers in Contemporary Japanese Art」 The Japan Foundation Sydney (シドニー、オーストラリア)
 「異性愛規範を解きほぐすためのエクササイズ、パート2」 UltraSuperNew Gallery (東京)
 2021 「Lost in Translation」 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (京都)
 「shelter – Art Collection by HIMEMOTO」 すさきまちかどギャラリー旧三浦邸 (高知)
 「EMAF (ヨーロピアン・メディア・アート・フェスティバル)」 オンライン
 「第13回恵比寿映像祭 地域連携プログラム Emotional Rescue –池田光宏 高田冬彦 ウィスット・ポンニミット」 AL (東京)
 2020 「When It Waxes and Wanes」 VBKÖ (ウィーン、オーストリア)
 2019 「不可能な人」 TAV GALLERY (東京)
 2018 「TERATOTERA祭り2018」 三鷹駅周辺 (東京)
 2017 「SPRING FEVER」 駒込倉庫 (東京)
 2016 「MOTアニュアル2016 キセイノセイキ」 東京都現代美術館 (東京)
 2015 「Super Body Maniac」 児玉画廊 (東京)
 「現在幽霊画展」 TAV GALLERY (東京)
 2014 「Drawing03 →preference」 濵谷画廊 (東京)
 2013 「II TENKI group show with Japanese artists」 WILLEM BAARS PROJECT (アムステルダム、オランダ)
 「メント・モリ ~愛と死を見つめて~」 白金アートコンプレックス (東京)
 2011 「EMERGING / MASTER 1 会田誠 | 美術であろうとなかろうと」 トーキョーワンダーサイト本郷 (東京)
 2010 「NEO NEW WAVE」 island (千葉)

主な上映

2023 AWT VIDEO 「元始、女性は太陽であった」 三井住友銀行東館 1F アース・ガーデン (東京)
 「たまき -eastern film promises-」 京都市京セラ美術館 (京都) / 台北市内 (台湾)
 川口隆夫 「バラ色ダンス 純粹性愛批判」 映像プログラム 「日本の〈キャンプ〉の水脈」 ロームシアター京都 (京都) / 那覇文化芸術劇場なはーと (沖縄)
 2022 「高田冬彦のおとぎ話ビデオアート 上映会+トーク」 神奈川大学 みなとみらいキャンパス (神奈川)
 「1970年~2010年代 日本的〈キャンプ〉の水脈 岡部道男+高田冬彦」 ゲーテ・インスティトゥート東京 (東京)
 「Fringe! Queer Film & Arts Fest Presents, Fringe! Shorts: The Wondrous Worlds of Fuyuhiko Takata」 RICH MIX (ロンドン、イギリス)
 「Queer East Film Festival」 Barbican Cinema 2 (ロンドン、イギリス)

2018 「Bodyscapes: new film and video from Japan」 Fabrica (ブライトン、イギリス他巡回)

2016 「国立奥多摩映画館 -森の叫び-」 国立奥多摩映画館 (東京)

2011 「TERATOTERA祭り2011 -post-」 吉祥寺パウスシアター (東京)

その他

2018 (市原佐都子 (Q) とのコラボレーション演劇作品) 「地底妖精」 早稲田小劇場どらま館 (東京)

2017 (市原佐都子 (Q) とのコラボレーション演劇作品) 「地底妖精」 SCOOOL (東京)

2015 (ダンスと映像のアートプロジェクト/上映/トーク) 「BONUS 第2回 超連結クリエイション 牧神の午後篇」 VACANT (東京)

展覧会図録

『FAIRY TALES IN ART AND FILM』 Queensland Art Gallery | Gallery of Modern Art、2023年12月

『Storymakers in Contemporary Japanese Art Exhibition Catalogue』 The Japan foundation、2022年10月20日

『あなたは自主規制の名のもとに検閲を内面化しますか』 ARTIST'S GUILD+NPO法人 芸術公社、2016年5月25日

パブリックコレクション

HBC Global Art Collection

高橋龍太郎コレクション

タグチ・アートコレクション

ピゴッチ・コレクション

S-HOUSEミュージアム

アーティストウェブサイト

<http://fuyuhikotakata.com>



2022年『NADA Miami 2022』 (Ice Palace Studio、マイアミ、アメリカ)

展示風景

Photo by Teri Romkey

※お問い合わせは下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM (代表: 芦川朋子)

住所: 〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間: 水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日: 月火祝

Tel: 03-6304-1877 Eメール: info@waitingroom.jp

Web: <http://waitingroom.jp>